

技術評価報告書

申込者： 共英加工販売株式会社 代表取締役 竹若 茂樹
山口県山陽小野田市大字小野田 6289-18

技術名称： キョウエイリング 295～490 溶接せん断補強筋（大阪工場）

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2024年3月28日付けの技術評価書(SABTEC 評価 23-03)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2024年3月28日

一般社団法人
建築構造技術支援機構

代表理事 益尾 潔

建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田才 晃	横浜国立大学	名誉教授
委員	磯 雅人	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	都祭 弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授



技術評価書

申込者：共英加工販売株式会社 代表取締役 竹若 茂樹
山口県山陽小野田市大字小野田 6289-18

技術名称：キョウエイリング 295～490 溶接せん断補強筋（大阪工場）

技術概要：共英加工販売(株) 大阪工場では、前身の共英産業(株) 大阪工場の時代からタフコン SD295～SD390 の溶接せん断補強筋をフラッシュ溶接でキョウエイフープ(GBRC 性能証明 第 07-03 号：2007 年 5 月 8 日)として製造し、2010 年からは SD295～SD490 溶接閉鎖型せん断補強筋キョウエイリング(GBRC 性能証明第 09-25 号:2010 年 1 月 12 日)としてフラッシュ溶接で製造するとともに、本部工場、九州工場、広島工場では、アプセット溶接で溶接せん断補強筋を製造している。

これらより、共英加工販売(株)では、今回、大阪工場で製造するキョウエイリング 295～490 溶接せん断補強筋は、アプセット溶接として、A 級継手性能の技術評価を取得することとしている。また、キョウエイリング 490 の場合、JASS5 による鉄筋の折曲げ形状寸法の規定に基づき、曲げ角度 180° として曲げ性能を確認することで、末端 135° フックおよび 180° フックにも適用できるとしている。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2024 年 3 月 28 日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
建築構造技術審議委員会
委員長 窪田 敏行

記

評価方法： 申込者提出の下記資料を基に、技術評価を行った。
キョウエイリング 295～490 標準製造要領書、溶接試験説明資料および関連資料
これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。

評価内容： キョウエイリング 295～490 溶接せん断補強筋(大阪工場)は、2020 年版建築物の構造関係技術基準解説書に示された建設省告示第 1463 号(平成 12 年 5 月 31 日)に基づく「鉄筋の溶接継手性能判定基準」による A 級継手性能を有すると判断される。

技術評価内容

申込者

共英加工販売株式会社
代表取締役 竹若 茂樹
山口県山陽小野田市大字小野田 6289-18

技術名称

キョウエイリング 295～490 溶接せん断補強筋（大阪工場）

適用範囲

- 素材鉄筋 JIS G 3112 に適合する共英製鋼(株)製タフコン SD295～SD490
呼び名 : D10, D13, D16
- 溶接方式 アプセット溶接
- 製造工場 共英加工販売(株) 大阪工場
- 溶接機 (株)日本溶接機 製 BUE-60-Y

技術評価に際して行われた試験

キョウエイリング 295～490 溶接せん断補強筋の妥当性は、共英加工販売(株)大阪工場で作製した溶接試験片 4230 本について行われた検知試験結果、ならびに呼び名ごとの標準溶接条件の中央値とした下記の試験結果を基に確認している。

- ①基本確認試験、②特殊条件確認試験、③溶接部硬さ測定、④溶接部マクロ組織観察
「鉄筋の溶接継手性能判定基準」による一方向繰返し試験および鉄筋母材曲げ試験

技術評価の主な審議事項

- 1) 溶接せん断補強筋検証試験の妥当性
- 2) 溶接せん断補強筋製造品質管理の妥当性

技術評価の経過

2023年12月27日開催の第61回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記)で申込者提出の技術資料に対する指摘事項を、事務局が確認することとした。事務局は、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料を確認し、結果を2024年3月28日開催の第62回建築構造技術審議委員会に報告した。

建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について慎重に審議を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上